校長室だより～燦燦～ №７７６

心技体

2023.6.21

「心技体」という言葉がある。まずは「心」である。スポーツなどで、よく指導者は、普段の生活態度が試合に出るというようなことを言う。確かにそうだと思うのだが、どうもこれが当てはまらない選手もいる。

今までソフトテニスの選手を数多見てきた。娘がプレーヤーのときは、当然女子の練習や試合を見ている。ところが、ついつい男子の方に目がいってしまうことがよくあった。見ていておもしろいのである。小学校、中学校、高校と、常に日本のトップ選手が近くにいた。そのプレーを見る機会に恵まれてきた。上手いし、強いし、きれいなのである。見事なプレーである。

では、このようなトップ選手たちの普段の生活はというと、どうもお世辞にもほめられるものではない。だからといって、試合に弱いのかというと、そんなことはない。テニスコートに入ると、別人になる。あれが不思議である。「心」よりも「技」が上回っているのだろうか。試合で、競ったとしても、特別弱いようにも思えない。これでは、前述の法則が当てはまらない。こういう人もいると思っていた。

高校まではいい。ところが、大学や社会人になると、トップ選手たちの中で崩れていく人たちが出る。それは、やはり普段の生活態度などが、お世辞にもすばらしかったとは言えない人たちなのである。そのまま崩れずに、全日本クラスで活躍するのは、礼儀正しく、練習への取組もすばらしく、人間的にも優れた人たちである。中には、大学や社会人になってから、人間的な成長を遂げる人もいる。

結局、法則は正しかった。ある程度までは、才能でいけるが、その先は人間性、人間的なものが必要になってくるのだろう。心技体の「心」である。これは、プロ野球の大谷翔平選手がよき例となっている。この法則を証明してくれている。

中学生のソフトテニスの試合を見ていると、トップレベルは別だが、一般的なレベルでは、普段まじめに練習をしていないような選手は、大会では全くと言っていいほど、力を発揮することができないことがある。普段、まじめになったことがないため、大会で急にまじめになろうとしても、うまくできないのだろう。

多くの指導者が言っていることであり、私の経験からも、そう思うことがある。それは、コツコツと努力を重ねてきた選手ほど、大事なときに力を発揮するということである。私は、このような選手に、何度も助けられた。地道に技術を習得しながら、「心」も鍛えてきたのだろう。やはり「心技体」は正しい。